

文学部

文学部生のリアルな学生生活

Vol.43

文学部生のリアルな学生生活の様子を掲載し、ご父母の皆さまに文学部生の充実したキャンパスライフの風景、また文学部ならではの取り組み等の情報を発信いたします。

大学の学びびって面白い

文学部人文社会科学専攻図書館情報学コース4年
私立明星高等学校（東京都）出身

かづもと はづき
掛本 葉月



数年前、大学に文学部は必要ないという議論が行われていました。現在はそのような話を聞かなくなりましたが、そのことを蒸し返して否定したいと思うほどに現在の文学部での学生生活は刺激的で楽しいものです。

1年生。本が好き、図書館が好きという気持ちで図書館情報学コースに入学した私は、大学生の大変さに驚きました。高校の倍の時間をかけて行われる授業や定期的な課される慣れないレポートなど、新しいことがたくさんあったためです。ただし、授業は必修の社会情報学に関するものがほとんどで、苦手な授業はあったものの比較的楽しく受講できました。最も印象的だったのは1年生の必修授業である「大学生の基礎（1）」です。今でも可能ならばもう一度受講したいと思うほど興味深い授業でした。

2年生になると、資格課程が始まります。中央大学では2つまで資格課程を履修

することができ、入学時から司書課程を履修することは決めていたものの、もう一つを決めかねていました。国語の教職課程を履修したいと思いましたが、私の専攻では取得することができないためです。そこで何となく選んだ社会教育主事の課程が、私の学生生活を大きく変えてくれました。

社会教育主事と聞いて、皆さんはどのような仕事を思い浮かべますか？あまりピンとこないのではないのでしょうか。私自身、履修を始めた当初は十分に理解できておらず、児童館や公民館で働いている人というイメージを漠然と持っているだけでした。しかしいざ履修を始めると、社会教育の面白いこと。海外の教育制度や日本の学習指導要領、授業の到達目標を学ぶことで、「こんなことを勉強して何の役に立つの?」「こんなことを勉強して何の役に立つの?」などと言っていた義務教育への見方が180度変わりました。授業がオンラインに変更されたために社会教育実習を十分に行うことができなかったのは非常に残念ではあ

りましたが、プラスに感じることも多くありました。

たとえば、例年であれば阿智村（星がとでもきれいですよね）で対面にて開催されていた学生セミナーがオンラインとなり、自宅にいながら参加することができました。おかげで、公民館などで生涯学習をされている方と、オンライン授業で交流する機会を持つことができました。デジタル環境があまり整っていない中でも積極的にオンラインでの学習に取り組まれている様子から、社会教育現場の学びに対する熱い思いがひしひしと伝わってきました。これはオンライン化を余儀なくされたからこそ感じるこ

とができたのだと考えています。
3年生も引き続きオンラインで授業が行われ、私も選択授業と資格課程の授業に取り組んでいました。そんな中、一つだけ対面中心で行われた授業がありました。それは「生涯学習経営論」です。経営論的な観点から社会教育の意義や可能性について

学ぶ授業で、後期には公民館利用者と職員の方々を対象に共通のキーワードを軸にインタビューをして冊子を制作するのですが、これが非常に大変でした。職員の方へのインタビューが白熱してしまい、気が付けば1時間の予定が3時間も経ってしまい、その内容をたった1200字に凝縮しなければならなくなったからです。これがとても難しく、何度も録音を聞き直しながら、繰り返し語られる内容をリストアップして文字起こしました。さらに、それぞれが書き上げた原稿を発表して推敲を重ね、最後に1冊の冊子を完成させたこの授業は、大変でしたが達成感のあるとても楽しい授業でした。

もう一つ、3年生で忘れられない経験があります。夏休みに行った図書館実習です。約2週間の実習は私にとつて、今まで机上で学んできたことが現実と結びつく貴重な時間でした。司書はサービス業であると体感できたことも、その後の学びに大き



サークルではハーモニカを吹いています



生涯学習経営論のメンバーと完成した冊子



授業に興味を持ち、寄席に行きました



先生も一緒に



大学1年次から所属している消防団

く影響を与えたと感じています。図書館は
社会教育施設であるという当たり前のこと
を社会教育主事課程の中で再認識したこと
で、実習中も実際に図書館がどのような役
割を担っているのかを常に考え、有意義

な時間を過ごすことができました。
そして4年生。本格的に就職活動が始
まり、前期はあまり授業を履修することが
できませんでした。後期は最後の学生生活
を楽しみつつも、後悔のないよう興味のある
授業を受講し尽くし
たいと思います。

最後に、私が社
会教育について学ぶ
中で何度も目にし、
耳にしたことを紹介
させていただきます。
それは「学ぶことは
楽しい」ということ
です。義務教育から
始まった高校までの
長い学校生活の中で
勉強が楽しいと思っ
たことが何度あつた
か思い返してみまし
たが、私は片手で足
りるほどしかありま
せんでした。しかし
大学では毎日、学ぶ
ことの楽しさを感じ
ています。それはテ
ストや受験のためで
なく、自分のために
勉強をしているから
だと思えます。人生
を豊かにするために、
これからも自分の興
味のあることについ
て学び続けたいです。

文学部だより

ご挨拶

文学部事務室 やまおか ちさと 山岡 知里

ご父母の皆さま、はじめまして。2022年7月1日付で文学部事務室に異動してまいりました、山岡知里と申します。

入職してから4年間、入学センターで学生募集広報の業務を担当し、全国各地で開催される「進学相談会」を通して、受験生やご父母の方々に直接お話する機会をいただきました。この冊子をお手に取っていただいているご父母の皆さまと、これまでに全国いずれかの会場でお目に掛かることができたりましたら幸甚に存じます。

文学部に配属となり、まず始めに7月末に開催されるオープンキャンパスの文学部ガイダンスを担当する機会をいただきました。文学部のカリキュラムや各種制度について改めて学び直す中で、在学生やご父母の皆さまにこそ、今一度是非「文学部ならでは」のサポートを知っていただきたいと感じました。この度は、文学部の「共同研究室」に

いてご紹介いたします。

共同研究室は、13の専攻ごとに設置された自習室・図書室・ゼミ教室が一体となった施設で、専攻ごとの図書室の蔵書数はなんと計32万冊にも及びます。共同研究室は授業の合間に自習場所として利用することもできますので、大学の中での「居場所」になります。

この冊子が皆さまのお手元に届く11月には後期の授業も中頃を迎え、学生たちはより一層学びを深めていらっしゃると思います。文学部は全体で700にも及ぶ専門科目を擁しており、新たな学び・発見の宝庫です。授業での学修の理解度をより深め、学びに没頭し、夢中になれる環境で知見を深めてもらえたらと考えています。

昨今の社会情勢下、新しいことに挑戦することに二の足を踏んでしまう学生も多いのではないかと思います。このような状況の中でも、ご子女の学修意欲に対し、最大限のサポートができるよう精一杯努めてまいります。お困り事がありましたら、是非お気軽にご相談ください。どうぞよろしくお願いいたします。

